

1. 事業概要

竜ヶ崎工場は、クボタベンディングサービス株式会社(KVS)、株式会社クボタ関東ベンダーセンター(KKVC)を含みます。

住所	〒301-0852 茨城県龍ヶ崎市向陽台5丁目6番	
従業員数 (協力会社)	クボタ	97 (H27.4.1現在)
	KVS	95
	KKVC	33
敷地面積	クボタ	17,239㎡
	KVS	19800㎡
事業内容	<p>クボタ：自動販売機の開発、生産、サービス（缶、紙パック、タバコ、券売機、コーヒー）</p> <p>KVS：自動販売機のオーバーホール、修理、板金、再塗装、機能の追加などの整備</p> <p>KKVC：自動販売機のオーバーホール、修理、再塗装、などの整備</p>	
主要製品	 <p>ヒートポンプ方式 自動販売機</p> <p>ユニバーサルデザイン 自動販売機</p> <p>シースルー自動販売機</p>	

工場変遷(沿革)		クボタ	KVS	KKVC
昭和38	(1963)	牛乳自動販売機(MB型)の開発成功、生産開始(船出町)		
昭和48	(1973)	製造拠点を久宝寺工場へ移		
昭和53	(1978)	缶自動販売機生産開始		
昭和58	(1983)	ミルク付コーヒー自動販売機		
昭和61	(1986)	自動販売機事業部発足、生産台数増(3000台/月産)	(株)クボタベンディングサービス(株)を設立(八尾市)	
昭和63	(1988)		自動販売機の周辺機器の修理事業の開始(鎌ヶ谷市)	
平成元	(1989)	竜ヶ崎工場を新設、生産開		
平成2	(1990)		竜ヶ崎工場を建設し、リニューアル事業を開始	
平成5	(1993)		リニューアル機の整備台数5万台を達成	
平成8	(1996)	インドネシアにPT.メテックスマランを新設、生産開始		
平成9	(1997)			(株)クボタ計装より自販機部門を独立し、(株)クボタ関東ベンダーセンター設立
平成10	(1998)	ISO14001認証取得	ISO14001認証取得	
平成13	(2002)		リニューアル事業から整備事業に切替え	
平成16	(2004)	新塗装ライン完成		
平成15	(2003)			本社所在地を千葉県白井市から茨城県龍ヶ崎市に移転
平成17	(2005)		新塗装ライン完成	
平成18	(2006)	ノンフロン冷媒自販機販売開		
平成19	(2007)	累計生産100万台達成		ISO14001認証取得
平成20	(2008)	ヒートポンプ方式省エネ自販機販売開始		
平成22	(2010)		受入作業場の新設	
平成24	(2012)	KMAにて生産予定のUVハネス試作開始 R1234YF新冷媒自販機出荷開始 災害ベンダー開発		
平成25	(2013)	インドネシア、スマラン市クボタ自販機1号機設置		
平成26	(2014)	ピュアウォッシャー量産開始 ロードセル試生産 KVMS設立 自販機生産125万台達成 125期に出荷する自販機において、全ての区分で、2012年目標値をクリアした		

2.環境方針

ISO環境方針

理 念

私達は「地球規模で持続的な発展が可能な社会」、「企業と市民が相互信頼のもとに共生する社会」の実現をめざし、以下のスローガンを掲げ地球環境の保全に配慮した企業活動を行います。

スローガン

For Earth, For Life

方 針

竜ヶ崎工場は、自動販売機の開発、製造及びサービス活動において、環境マネジメントシステムを確立し、地球環境に配慮した活動を行います。

また、製品が使用され廃棄されるまでの環境に影響を与える地球温暖化、オゾン層破壊及び廃棄物拡大等を低減するように製品開発において継続的改善に努めます。

1. 原材料に関して、製品開発段階での選定から生産段階に入ってから購入、使用、廃棄、回収等の扱いにおいて汚染の予防に努めます。
また、生産工程の改善、使用原材料の見直し、省エネルギー等生産方法の広範に亘り、長期的に環境負荷低減の継続的改善に努めます。
2. 環境関連法の遵守は勿論のこと、同意したその他の要求事項についても手順を設定し維持することに努めます。
3. 環境負荷を低減するために、製品開発及び生産段階の管理でき得る全てのプロセスにおいて技術的、経済的に可能な範囲で達成すべき目的・目標を定め、その実施状況を定期的を確認し見直しを行うように努めます。
4. 環境管理活動の重要性を全従業員に徹底し、環境保全に対する意識の向上に努めます。そのため、この環境方針は全従業員に周知徹底致します。
5. 地域社会で行われる環境保全活動への参画、支援に取り組み、地域との共生に努めます。この環境方針は、一般の人々の求めに応じて公表致します。

ISO認証取得状況

クボタ、KVS

平成10年（1998年）

認証機関：DNV社 認証No.1273-1998-AE-KOB-RVA

平成18年（2006年）

KKVC

平成19年（2007年）

認証機関：DNV社 認証No.1273-1998-AE-KOB-RVA

3.環境保全中期計画 目標及び実績

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度※4	2014年度	
					実績※4	自己評価※5
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位※2	2008	▲14%	+97.0%	△
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	+102.3%	△
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	+239.2%	△
		再資源化率※3	-	99.5%以上	99.4%	△
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	+75.2%	△
化学物質の管理	VOC※1の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	+133.5%	△

- ※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。
- ※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。
- ※3 再資源化率(%) = (有価物売却量+社外再資源化量) ÷ (有価物売却量+社外再資源化量+埋立量) × 100
社外再資源化量には熱回収量を含みます。
- ※4 ▲は「マイナス」を意味します。
- ※5 自己評価の基準 ○目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

4.環境パフォーマンス

①地球温暖化の防止



②循環型社会の形成(廃棄物)



③循環型社会の形成(水)



④化学物質の管理



- ※1 原単位2008年度比: 2008年度の内作生産金額ベースの原単位を100とした場合の割合
- ※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

竜ヶ崎工場 クボタ/KVS/KKVC

4.環境パフォーマンス(つづき)

PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減(2014年度)

単位: kg/年

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
53	トルエン	2,500	0.0	0.0	0.0	0.0	160
80	キシレン	6,700	0.0	0.0	0.0	0.0	64
300	エチルベンゼン	1,200	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6.環境トピックス



【流出防止訓】



【消防隊による放水訓】



【消火器による 初期消火訓】

2014年11月4日11:30~12:00総合防災訓練を実施し、254名が参加しました。

7.環境コミュニケーション

地域美化活動

名称 つくばの里工業団地周辺の空缶回収・清

日付 2014年3月12日

2014年6月11日

2014年11月14日

参加人数 約10名



名称 クボタデー(牛久沼水辺公園及び周辺道路の清掃活動)

日付 2014年10月11日7:45~9:00

参加人数 61名(KVS、KKVC含む)



竜ヶ崎工場 クボタ/KVS/KKVC

8.サイトデータ(KVS, KKVC含む)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	930
水使用量	万m ³	1.0

OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,573
---------------------	-------------------	-------

	主要ばい煙発生施設		ボイラー		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制とも にm ³ N/h	※硫黄分ゼロの都市ガス使用		
	NOx	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm	濃度規制	230.0	39
	ばいじん	g/m ³ N	濃度規制	0.2	0.01未満

排水量	公共用水域	万m ³	-
	下水道	万m ³	0.9
汚濁負荷量	COD	kg/年	-
	窒素	kg/年	-
	りん	kg/年	-

	放流先	項目	単位	排水口名	
				規制値	測定値
排水	公共用水域	pH	最小値, 最大値	-	-
		BOD	mg/l	-	-
		COD	mg/l	-	-
		窒素	mg/l	-	-
		りん	mg/l	-	-
		六価クロム	mg/l	-	-
		鉛	mg/l	-	-
		COD総量規制値	kg/日	-	-
		窒素総量規制値	kg/日	-	-
		りん総量規制値	kg/日	-	-
		下水道	pH	最小値, 最大値	5~9
	BOD		mg/l	600	150
	COD		mg/l	-	-
	SS		mg/l	600	11

廃棄物排出量	t	203
再資源化率	%	99.4%